

科目名	老年看護学実習 Gerontological Nursing Practice		担当教員 (研究室番号)	小松 美砂 (301) 清水 律子 (506) 他		教員への連絡方法 (メールアドレス)	小松 : misa.komatsu@mcn.ac.jp 清水 : ritsuko.shimizu@mcn.ac.jp					
履修年次	3年次後期	科目区分	専門科目・生涯看護学		選択区分	必修	単位数(時間)	2(60)	授業形態	実習	科目等履修生	否
											オープンクラス	否
科目目的	老年看護学概論、老年看護方法Ⅰ、老年看護方法Ⅱで学んだ知識と技術を用いて、健康課題を有する高齢者と家族に対する看護過程を展開し、高齢者がその人らしく生きることを支援するための看護実践能力と態度を養う。											
ディプロマ・ポリシー(DP)	主要なDP	H 人々の健康に関する課題の解決に向けて、安心・安全・安楽・自立を基本とした看護を実践する技能を身につけている。(技能・表現)										
	関連するDP	D 様々な職種との連携において、看護専門職としての役割を果たすためのコミュニケーション能力を身につけている。(技能・表現) I 自己の課題に対して研鑽する態度を身につけている。(姿勢・態度)										
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 老年期の身体、精神、心理・社会的な特徴を多面的・総合的に理解することができる。 2. 加齢や健康障害が高齢者の生活に及ぼす影響を理解し、看護上の課題を明確化することができる。 3. 高齢者の個性を考慮し援助計画を立案することができる。 4. 高齢者の状態に適した看護援助を実施し、評価できる。 5. 高齢者を取り巻く社会や環境について理解し、多職種連携や看護の役割・独自性について自分の考えを述べるができる。 6. 高齢者の意思を尊重し、高齢者から学ぶ姿勢や態度で接することができる。 											
成績評価方法(基準)	実習内容、実習記録、実習態度、カンファレンスの参加状況により総合的に評価する。											
再試験の有無と基準等	「実習の出欠席及び追実習に関する取扱要領」第4条に規定される理由により当該実習期間の1/4を超える日数を欠席した場合に追実習を認める場合がある。											
教科書	特に指定しない。											
参考書等	特に指定しない。											
学生の主体性を伸ばすための教育方法と学生への期待	老年看護学実習では、常に高齢者の立場になって考える習慣を身につけてください。これまでに学んだ知識や自己学習を生かして、主体的に学ぶことを期待しています。											
備考												

学 習 内 容

1. 老年看護を実践する能力と態度
受け持ち高齢者の身体、精神、心理・社会面を統合して把握し、全体像をとらえた上で看護を実践するための能力及び態度について学ぶ。
 - 1) 高齢者の理解と看護過程の展開
高齢者の生活機能を考慮した看護を実践する能力を養う。
情報収集、アセスメント、高齢者の健康課題の明確化、看護目標の設定、看護計画の立案、実施、評価・修正と、一連の看護過程を展開する能力を養う。
 - 2) 高齢者と家族への看護
高齢者及び家族の状況を把握し、社会資源を活用した支援方法の実際を学ぶ。また、高齢者の退院後の生活について考え、高齢者及び家族に対する退院指導の実際を学ぶ。
 - 3) カンファレンス
カンファレンスを通して学生相互で情報交換することにより学びを深め、多職種連携における看護の役割・独自性について自ら考える機会とする。
- * 「領域別看護学実習要項」参照

学 習 課 題

実習前：

1. 老年期の身体、精神、心理・社会面の特徴を整理する。
2. 高齢者によくみられる症状と看護について、講義の資料を参考に整理する。
4. 高齢者の健康障害と看護について、講義の資料を参考に整理する。
3. 認知症高齢者への看護について整理する。

実習後：

1. 臨地実習での学びを振り返り、体験を通して学んだことについて具体的に記述する。
2. 臨地実習を通して学んだ老年看護の独自性や、多職種連携における看護師の役割について自分の考えを記述する。

実務経験を活かした教育の取組

・担当教員全員は、看護職として実務経験がある。看護の実践及び教育・研究活動を行っており、その経験を活かして本授業の講義及び演習を行う。